

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

三春わが街

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

■コミュニティだより

VOL.115 (年4回発行)

■発行日 令和7年3月31日
 ■発行 三春まちづくり協会
 ■編集 三春まちづくり協会広報部会
 三春町大字貝山字泉沢100-1
 TEL/FAX(62)3988

三春中学校の 現況について

三春中学校校長
渡辺 和也

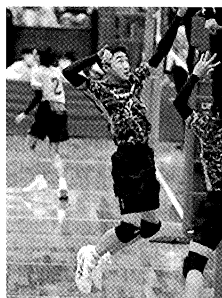
三春町の皆様には、日頃から大変お世話になっております。令和6年度教育活動の現況についてお知らせします。

生徒数は1月20日現在で1年生97名、2年生92名、3年生93名、合計282名、来年度は5名程度増の予定です。全国的な少子化の中、生徒数が減らない学校は珍しく、ありがたいことです。学級数は通常学級9、特別支援学級3、計12学級で来年度も変わらない予定です。

学習面では、どの学年も各教科に集中して取り組んでおり、アンケートで90%以上の生徒が「授業が分かりやすく楽しい」と答えています。学年型教科教室型の学校であり、授業は基本的に一斉指導の時間を減らし、4人グループの課題解決型授業です。そのためかアンケートで「生徒は楽しく通学している」と答えた保護者が約90%でした。

部活動でも活躍が光っています。別掲のように全国大会、東北大会に進出して活躍する生徒が多数です(3ページに詳細掲載)。三春町の皆様のご支援に感謝申し上げます。文化面では吹奏楽部が田村地区1位で

県大会出場、特設合唱部は東北大会に進出しました。文化部(旧美術部)は「Mon ami」さんを会場に作品展を開催するなど活発に活動しています。また、主体性や感性を育む活動を重視しており、HARUフェス(文化祭)は盛り上がり、芸術鑑賞教室ではプロの演奏家と生徒の共演も行いました。



JOC杯全国都道府県対抗
中学バレーボール大会
福島県代表遠藤悠斗選手(3年)

課題としてはSNSとの付き合い方があります。スマホを使用している生徒が多くなり、オンラインゲームや動画視聴などの時間が多くなる傾向が見られ、保護者の皆様の協力をいただきながら改善を図る必要があります。

大切に行っているのは、安全・安心(いじめ防止を含め)の中で学力向上を図ること、そして「思いやりの心」です。どんなに学習や運動ができても、友人を傷つけるような言動があつてはいけません。今後も、人権意識の一層の向上も図りながら、教職員一同一丸となり教育活動を進めて参りますので、どうぞよろしくお願ひします。

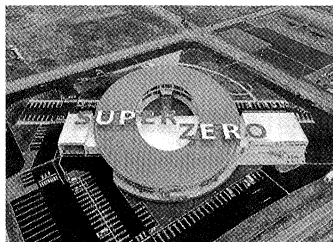
令和6年度視察研修

中町区長 永井 久

三春まちづくり協会の今年度の視察研修は、十月十八日、あいにく小雨模様の日でしたが、双葉町・富岡町・広野町方面へ行ってきました。

都路を通って双葉町に入ると、原発事故から十三年経った今でも道路の両側にはバリケードが張られ、そこから中へは立ち入れないようになっています。かつてそこに在った平穏な日常を奪われたままの街の姿を目の当たりにして、複雑な思いに駆られました。

最初に訪れたのは「浅野燃系フタバスーパーゼロミル」です。津波で何もかもなくなった双葉町に新たな工業団地が作られ、岐阜県安八町(あんぱちょう)に本社のある「浅野燃系」が令和五年三月に工場を稼働させました。



社屋の屋根の素晴らしい看板
地上から見られないのが残念

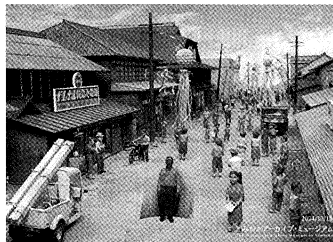
案内係の職員さんが、浅野燃系の歴史や商品開発の裏話などを丁寧の説明してくれて、この企業を応援したい気持ちになりました。マスコミでも多く取り上げられた吸水性・速乾性・耐久性に優れたタオルを、私も含め皆さんがお土産に買ってきました。



製品の特長について説明を聞いている

次に訪れたのは「東日本大震災・原子力災害伝承館」です。令和二年に開館した県立の施設で、大画面の迫力ある映像や数々の展示品で、東日本大震災と原子力災害の記憶を伝えていく役割を充分に果たしていると感じました。

伝承館の向かいにある「双葉町産業交流センター」



昭和30年代に飛び込んだ事務局長
(アーカイブミュージアムの展示)

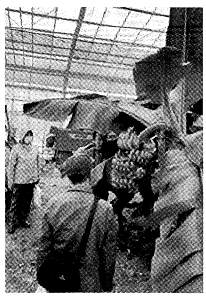
で昼食をとり、午後は「とおかアーカイブミュージアム」を訪ねました。富岡町で受け継がれてきた地域資料や、東日本大震災と原発災害で生じた震災遺産を収蔵・展示している施設で、当時の災害本部を再現した様子や、津波で犠牲になったパトカーなどが展示されており、改めて津波と原発事故の恐ろしさを認識しました。



バナナ栽培の経緯などの事業展開の経緯などの説明を受けている様子

研修の最後は「広野町トロピカルフルーツミュージアム」です。震災・原発事故からの農業・地域再生に向け、国産バナナ「綺麗」の栽培に挑戦している施設です。

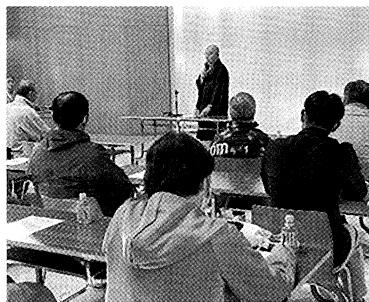
バナナの本格栽培は、東北地方で初の取組みということで、たいへん興味深い施設でした。



バナナの大きさが実感できた

聰

出囃子に乗って登場され、
会場は驚きに包まれました。



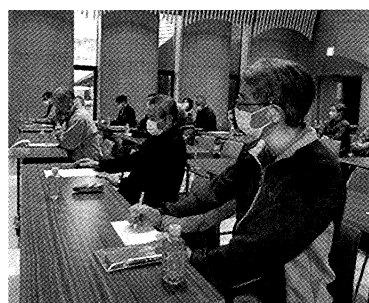
童謡「むすんでひらいて」の原曲はジャン＝ジャック・ルソーが作曲したものです。ルソーが夢の中で聞いたそうです。

その後、イギリスにおいてキリスト教の賛美歌「グ

が「見渡せば」という新し

そんなお話から変わって
日清戦争の時代の「桃から
生まれた桃太郎」の話にな
り、当時のお話では、おば
あさんが桃を一人で食べて
しまい、色気づいて出来た
のが「桃太郎」だったそう
です。

その桃太郎は、ぐうたらでケチだったそうで、犬・猿・キジに、きび団子を半分しか上げなかったそうです。家にいられなくなつて、鬼退治と称して宝物を奪い、言わば泥棒して持ち帰り、おじいさんに渡した



彼岸花は全国で温度に關

係なく、彼岸になると同時に咲く。迷子になる子は、ならない子より優しい。癌患者に、あとの位生きたいかと質問すると、年齢に関係なく「あと5年位は」と答える確率が高い。ウォーキングをしている人は立ち止まらないが、散歩

をしている人は、立ち止まる。ハプニングを信じてほしい。など、色々な面白いお話をして頂きました。

また、私が興味深かったのは、玄侑宗久氏が文章を書くようになったきっかけのお話でした。学生時代に

古本屋さんで立ち読みをしていたら、古本屋さんのおじさんに、これを読んでみないかと、渡された本を読み、感想を聞かれ、感想を話すとまた本を渡される。そうしているうちに、面白くなり自分も書くようになったとのこと。

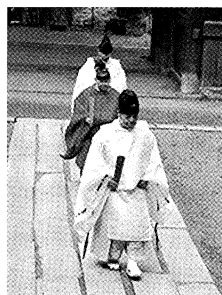
そして締めは、「むすんでひらいて」とは、むすぶとは考え直すこと、神仏を大事にする。一度ほどいてむすぶということだそうです。

今回は、三春町内で約10年ぶりのお話とのことでした。とても楽しくお聞きでき、可能であれば2度3度

田村大元神社

新町代表区長

先崎 正之



三春町内は文化遺産の宝庫。特に寺や神社の数も多く、それぞれの歴史を知ると特に興味深いところです。中でも新町住人は、郷社「田村大元神社」への思いは別格です。

祭礼にあたり、田母野宮司を、中心として仁王門から入場の様子
いよいよ祭礼の始まり

昨年も、夏の例大祭が斎行されました。長獅子・三匹獅子奉納・神賑行事・神輿渡御が執り行われ、新町区会も微力ながらお手伝いいたしました。

コロナ感染対策のほかに、熱中症対策も行いながら、大熱渡御となりましたが、

の人々の協力により、無事に齋行出来ました。各家々の門口で、長獅子や御神輿に、手を合わせるお年寄り。更には、その様子に感激して、一層力強く舞う長

獅子・別火講中の汗だくの面々。コロナ感染症を追い払う獅子の力強い舞でした。祭りの一体感は町中の暑

任期四年の神社総代に

とって、最重要となる祭例行事も、流石に一致団結して見事でした。

この様な文化遺産は、これからも新町だけでなく三春町全体の重要な文化遺産として、今後も長く継続して、大切に孫や子に伝えなければなりません。

三匹獅子とささら、最後境内での舞いの前に社殿に向かい礼。

令和5年より「新町区会（旧新町字会改）」では、名称変更を期に、未来の子供達への文化継承を検討して田村大元神社での「成長祈願祭」を始めました。子供たちは、町のみならず「国の宝」です。

田村大元神社宮司さんの



町内斎行から、最後の神社境内での舞いに向かう、坂をのぼり仁王門の敷居前での、烈しい舞い



カネサン書店

FAX61-1072

<http://www.e-hon.ne.jp/SHOP24278>

たき 在宅介護支援住宅
多喜の家 アカネサス



隨時入居者募集中 入居保証金0円

お問い合わせ先

TEL0247-61-7333 FAX0247-61-7332
〒963-7766 田村郡三春町字中町34

協力のもとに、三春小学校一年生を対象に、健やかな成長を願う「成長祈願祭」です。

P T Aはじめ保護者の皆さんの、ご理解ご協力のもと、希望者を対象に開催されました。

年々減っている子供たちが、災害や事件・事故などに合う事の無い様に。無事成長を新町全体で大切に守ってあげたい。との思いのもと、身近にある文化に直接触れる機会に。親御さんと一緒に、新町の自慢の文化で、思い出を創る機会等々、未来の子供達へ、委員一同思いをはせながら、「新町区会」主催で開催いたしました。

今年も、保護者の皆さん他関係者各位のご理解とご協力を頂き、3月に第3回（3年目）の募集を始めます。

文化遺産継承は、三春町で文化財保存活用が始まる旨伺いましたので、町の協力のものと、我が「新町」も、盗難・災害防止に対応しながら、後継者へ大切な文化を伝え、更に活かしていきたい様に、関係各位の皆様と協力していきたいと思ひます。

今後も「新町区会役員一同」全員で知恵を出して、頑張りますので、皆様のご協力を、宜しくお願い申し上げます。

スポーツ少年団 の活躍の紹介

ミニバス新人大会 男子優勝・女子は準優勝 三春ミニバスケットボール

スポーツ少年団
団長 佐伯 孝宏

1月19日（日）令和6年度田村地方ミニバスケットボール大会が行われました。

田村市大越体育館に男女合わせて、10チームが集まり、負けたらそこで終わりのトーナメント方式の大会で三春ミニバス男子が優勝、女子は準優勝できました。

バスケットボールは5人で試合を行うスポーツですが、ミニバスでは10人以上が交代で出場しなければならぬルールがあります。5年生の上級生だけで戦う訳にはいきません。

コロナ禍では声出し応援も出来ませんでした。今は声出し応援も可能です。

他のスポーツ同様、バスケットボール協会も暴言・暴力の根絶に力を入れて取り組んでいる中、罵声ではなく声援が会場に飛び交います。

声援は選手にとって力となり、一気に試合の流れを変える事も非常に多いのです。

追いつ追われつの接戦でしたが、男女共とても良い成績を残すことができました。

た。

大会終了後、聞こえてきたのは感謝の言葉でした。

選手からも保護者からも指導者からも健闘を讃えあう言葉と「ありがとう」の言葉が飛び交い、私自身も感謝の気持ちでいっぱいになりました。この大会では下級生のサポート役として陰で練習では手本を見せながらここまで引っぱり上げてくれた6年生たち。

試合には出場出来なかったけれど大きな声で応援してくれた下級生。

毎日子供たちの健康管理に気を配り、送迎から身の周りのお世話をしてくださった保護者の皆さん、技術の向上と感謝の言葉を言

た。大会終了後、聞こえてきたのは感謝の言葉でした。選手からも保護者からも指導者からも健闘を讃えあう言葉と「ありがとう」の言葉が飛び交い、私自身も感謝の気持ちでいっぱいになりました。この大会では下級生のサポート役として陰で練習では手本を見せながらここまで引っぱり上げてくれた6年生たち。

試合には出場出来なかったけれど大きな声で応援してくれた下級生。

えるスポーツマンに育ててく

定期的な練習ができる地域の環境とミニバスに關

わったすべての方々に感謝します。

「ありがとう」なかなか団員募集を出しても入団する子も少なく

団員が足りず勝ち星に恵ま

れた年もあり

ました。地方の大会とはい

え、男子優勝、女子準優勝おめでと



うございます。

新しい年度に向けて良いスタートができました。

まだ雪が残る寒い日でしたが晴々しい気持ちになり、一足早い春を感じる事ができた一日でした。

これからの三春ミニバスの活躍に期待します。

三春中学校の令和6年度全国大会・東北大会進出

【令和6年度 全国大会出場】

全日本中学校陸上競技選手権大会 共通3000m 14位 伊藤 瞭太（3年）
共通110mH 予選敗退 大内 魁翔（3年）
全国中学校柔道大会 90kg超級 5位 坂詰 優斗（3年）
90kg級 1回戦敗退 丹治 翔（2年）

全国都道府県対抗男子駅伝競走大会福島県選手団

第3位 伊藤 瞭太（3年）

JOC 杯全国都道府県対抗中学バレーボール大会福島県選抜チーム

予選リーグ敗退 遠藤 悠斗（3年）

キャッチボールクラシック全国大会 決勝進出 三春中学校軟式野球部

【令和6年度 東北大会出場】

東北中学校陸上競技大会 共通男子3000m 1位 伊藤 瞭太（3年）
共通男子110mH 4位 大内 魁翔（3年）
共通女子4×100mリレー 予選敗退
小山 結花（2年）伊藤 百花（2年）
古川 由芽（3年）門馬 青花（3年）
共通女子100m 8位 門馬 青花（3年）
共通女子200m 8位 伊藤 百花（2年）

東北中学校男子駅伝競走大会 4位 三春中学校特設駅伝部

1区区間賞 伊藤 瞭太（3年）

東北中学校水泳競技大会 50m自由形 予選敗退 山崎 蒼獅（3年）

100mバタフライ 8位 山崎 蒼獅（3年）

東北中学校柔道大会 男子団体ベスト8 三春中学校特設柔道部

90kg級 3位 丹治 翔（2年）

81kg級 5位 高橋 麗音（3年）

55kg級 2回戦敗退 大内 陸（3年）

90kg超級 2回戦敗退 坂詰 優斗（3年）

50kg級 1回戦敗退 田中颯之樹（3年）

全日本合唱コンクール東北支部大会

混声合唱の部 銀賞 三春中学校特設合唱部

一級建築士事務所



結建築研究室

佐久間 保一

福島県田村郡三春町八島台 7-5-13 TEL (0247) 62-1775

うやまう心に、真心でご奉仕する



菊川屋

☎963-7765

福島県田村郡三春町荒町30

〈0247〉62-3600



FAX

〈0247〉62-1300

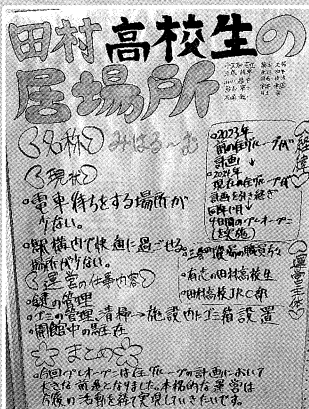
みはる助っ人中高生会議2024の紹介

第7回

今回は、田村高校の「総合的な探究の時間（夢ゼミ）」から離れて、福島大学との包括連携協定に基づき田村高校生も参加した「もっと素敵な三春町をつくる」をテーマにした「みはる助っ人中高生会議 2024」です。ご担当される先生方の協力を得ながら発表内容の一部を紹介いたします。（第7回）

「高校生の居場所づくり」～みはる助っ人中高生会議 2024 × 福島大学～

私たちは「みはる助っ人中高生会議 2024」に参加し、約半年間『高校生の放課後の居場所づくり』をテーマとし中学生や大学生と一緒に活動しました。



この課題を設定した理由は、現在、田村高校生は通学で利用する JR 磐越東線の汽車を待つ時間が長い上に、汽車が来るまでの間、快適に待つ場所がないという問題に直面しており、三春駅の近くに素敵な居場所を作ることができないか、と考えたからです。そこで、三春中学生、岩江中学生、田村高校生、福島大学生とともに、居場所を作るためにどうすればいいか協議を重ねるグループワークを2月まで続けてきました。

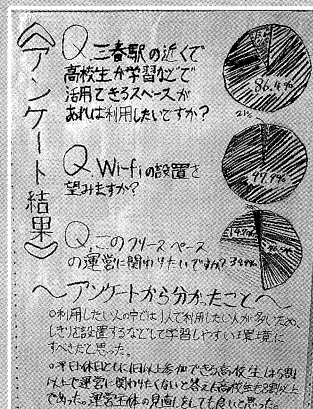
7月に活動を開始し、まずは12月に『居場所』を設置しプレオープンすることを目標に月に3回ほどの会議を開いて、課題の分析を行いました。「スペースは飲食可にするのか」「勉強ができるスペースをどのように確保するのか」「室内のレイアウトはどのようにするのか」「実際の運営は誰がおこなうことが妥当なのか」など課題を挙げ、田村高校生にアンケートを取ったり、役場の方々に話を聞いたりする等続けました。また、他の地域の取り組みを参考にしたりして何度も協議を重ねてきました。

実際に12月上旬に駅前の旧健康サロンのスペースをお借りして、4日間のプレオープンを実施しました。それまでに行ったアンケートで得た結果を参考に、『居場所』室内の机等のレイアウトを工夫して運営を行いました。プレオープンに『居場所』を利用した生徒は多くはありませんでしたが、利用した田村高校生からは「このような場所があるととても助かる」などを前向きな意見を聞くことができました。

プレオープン後に再度田村高校生にアンケートをとり、最終的に「無人の居場所では大変。誰か管理する人が必要ではないか。高校生の有志による運営は厳しい。どこかに運営を委託できないのか。運営方法はどのようにしたらよいか」という重大な課題があげられました。

さらに分析を進め本格的に運営が可能になった場合には、「施設内では騒がない。」「ごみは持ち帰る。」といったルールを決め、利用する人たちが快適に過ごせるような居場所が実現できるようにしていきたいです。

今回4日間ではありましたが、福島大学生6名の皆さんと一体になったグループワークの成果でプレオープンできたことは「高校生の放課後の居場所づくり」の実現に向けて着実に前進したと思います。今後とも私たち田村高校生も地域の一員であるという意識を持ち、地域を元気にできる場所を作り「もっと素敵な三春」に近づくように活動をして行きたいと思っています。



みはる助っ人中高生会議 2024 [住班]

田村高校2年 小豆畑 芯伍・三瓶 朋華 三春中2年 山川 恭平 岩江中1年 影山 寧々
福島大学1年 石塚 雅一・赤羽 柊平・井出 碧・田巻 佳悟・早津 章登・藤本 光陽

コミュニティだより
三春わが街 第一一五号
発行日 令和7年3月31日
編集 三春まちづくり協会
広報部 会
三春町大高山字栗沢〇〇一
(六二)三九八八

▽三春小学校は、2022年に創立150年を迎えた。卒業生としても嬉しい限りである。数年前、当時の三春小学校の校長先生に問われた。「小学校の体育館南側の坂道にある石垣の由来は何でしょうか?」と。はて?小学校に通っていたことも変わらないうちに、石垣の上から見た会場の時など、石垣の上から見たようにも記憶している。今は石垣の上の平らな場所には入れない。体育館寄りには入口部分で、一対の石柱門が今でも残っているが、門札はない。▽現在の体育館が建て替えられる前には、昭和9年の講堂新築に際し、敷地内にあった「奉安殿」は坂道の南側に石垣を築いて移築された。その時の石垣である。▽「奉安殿」は、天皇や皇后の御真影(写真)とともに「教育勅語謄本」を奉つていた建物である。壺井栄の名著『二十四の瞳』にも「天皇陛下はどこにおられますか?」と「押入れの中におります」といった、先生と生徒のやりとりの中で「奉安殿」が出てくる。▽戦後になつてその役目を終えた三春小学校の奉安殿は、愛宕神社本殿として利用されるようになった。愛宕神社に行くところ、左側の散策路から、かつての「奉安殿」の姿を見ることができ。▽私事ではあるが、父母ともに三春小学校を卒業した同級生である。それぞれの卒業アルバムには「奉安殿の正面に校旗が三脚に据えられ、石垣の上に建つ姿が写真に収められている。」(山口 晋)

編集後記